

現行業務やシステムは変えずにERPレベルの業務効率化と経営判断精度向上を実現 中堅企業向けデータ利活用ソリューションを提供開始

～高価なERPシステムを導入することなく、点在する業務システムのデータと
業務で発生するExcel等ファイルのデータを繋げ業務プロセスを最適化～

株式会社富士通四国インフォテック（本社：香川県高松市、代表取締役社長：竹岡ゆかり）
（以下、富士通四国インフォテック）は、「Fujitsu データ利活用ソリューション Documal-Drive
SaaS」（以下、データ利活用ソリューション）を2026年5月より提供開始予定です。

本サービスは、現場業務で発生するExcel等のファイルを現行業務システムで扱えるデータに変換
する基盤（以下、データ利活用基盤）を搭載しており、現行の業務を大きく変えることなく企業に蓄
積する情報の利活用を可能にします。さらに、当社で培った業務ノウハウを持った専任要員が利活用
の目的・目標設定から活用における業務範囲を広げながら伴走型支援（注1）でサポート（以下、
データ利活用支援サービス）します。

DX推進における現場の課題は、業務が変わることへの不安や通常業務との両立による作業負荷が
増加してしまうことです。これに対して、業務やシステムは変えずに業務で発生するファイルの情報
をデータ化し利活用することで業務を効率化します。現場の業務フローを丁寧にヒアリングし、段階
的な導入と伴走型のサポートを通じて、現場にやさしいDXを実現します。

DX推進における経営者の課題は、大企業のような豊富な資金力がなく、経営判断のためのデータ
収集・分析を現場へ負担せざるを得なくなっていることです。現場がこのデータ化を手作業で行うこ
とにより、データ収集漏れや時間が掛かることによるデータ鮮度低下を招き、精度の高い経営判断が
行えなくなります。これに対して、高価なERPシステムを導入することなく、業務で発生するファイ
ルを統合したデータとしてリアルタイムに見える化することでデータドリブン経営を実現します。

DXを進めるためには、現場と経営層の課題をうまく調和させることが重要です。当社は、双方の
視点を尊重し、両立を目指すアプローチでDX推進を加速します。

【背景】

近年、労働人口不足は拍車がかかり、企業はあらゆる面で業務効率化を模索するようになってい
ます。中堅企業においては、この動きが大企業よりも先鋭化し、これまで二の足を踏んでいたDXにも本格的に
取り組まざるを得ない状況となっています。しかし、DXを前に進めるためにはあらゆる情報をデータ化
する必要があり、特に製造業においては、多くの業務がExcel等のファイルを介在して行われていること
により、分析・活用できるデータとして管理できていないことが課題となっています。

上記の課題を解決するため、当社は業務で発生するファイルをデータとして管理・活用できる環境と
データ利活用のための伴走型支援サービス「データ利活用ソリューション」を提供開始します。

【特長】

1. データ利活用基盤

現行のファイルストレージや業務システムで管理しているExcel等ファイルをデータ利活用基盤へ登録することで、業務データ化からデータベース登録までのプロセスを自動化します。
 収集されたファイルは、テキスト化され構造化されたデータとして抽出（特許出願中）、名寄せやマスタ参照、正規化等の業務に必要なデータクレンジングを経て業務データへ変換されDWHへ登録されます。
 DWHは様々な業務システムから利活用可能なデータベースでGraphQL（注2）のAPIで公開しています。
 利活用する業務システム利用者はファイルを意識することなく業務を効率的に進めることができます。

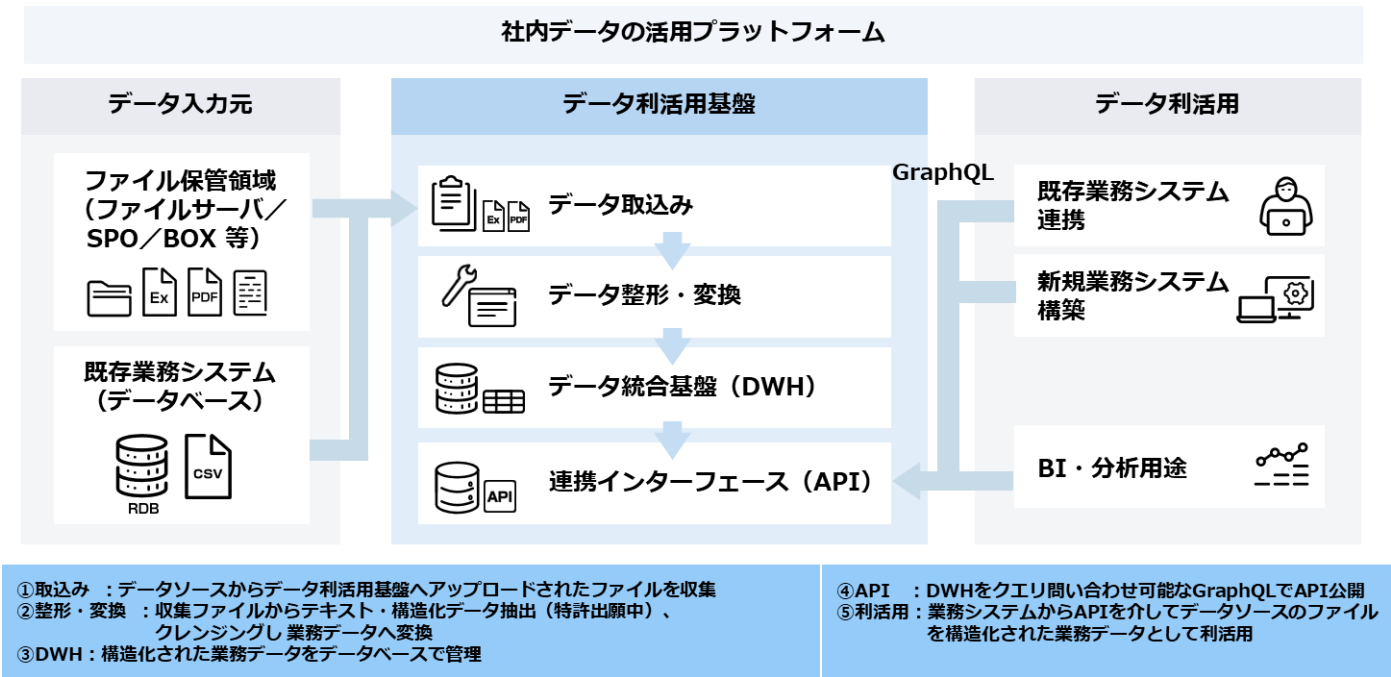


図 1：本ソリューションのファイルをデータとして活用できる環境イメージ

2. データ利活用支援サービス

利活用する業務システムの開発フェーズに合わせたデータ利活用の支援サービスを提供します。
 企業のDX成熟度に応じて、要件定義フェーズでは利活用する業務で発生するファイルやデータの整理から支援します。
 保守フェーズでは利活用の効果を評価・改善、広範囲な業務での利活用を促進し、伴走型で業務プロセス最適化の実現を支援します。

要件定義	①業務データ利活用支援	業務で使用するExcel等のファイルやデータを確認し、業務システムで活用できるよう構造化を検討する 構造化が困難なファイルや記載形式の課題を抽出し、対応策を検討する
設計	②データ構造化設計支援	Excel等のデータ抽出項目・方法・クレンジング内容を設計し、抽出定義ファイルを作成する 構造化に必要な記載形式の修正対象と方法を説明する
製造～テスト	③データ利活用基盤構築支援	Excel等のデータ抽出定義を基盤に設定し、構造化データを格納するテーブルを設計・構築する 実ファイルで抽出から登録までのテストを実施する
保守	④データ利活用運用改善支援	登録データの抽出状況をログ解析し改善提案を行い、基盤や業務システムの活用状況を分析して改善策を提示する 新たな業務効率化の要望をヒアリングし、対象データの概要を整理する

図 2：本ソリューションのデータ利活用のための伴走型支援サービス

【中堅企業におけるファイル利活用の実態】

当社のお客様10社（中堅企業の製造業）で実施したヒアリングでは、Excel等ファイルを介した業務が多く、業務システムが点在しており二重入力による手作業が業務効率化の妨げになっていることが確認できました。各部門でExcel等ファイルで管理する顧客情報や販売実績などデータとして統合されておらずERPのような販売分析やマーケティング戦略立案がデータに基づき実施できないという経営者の悩みの声も確認できました。当ソリューションでは企業で優先する業務課題解決からスモールスタートが可能です。

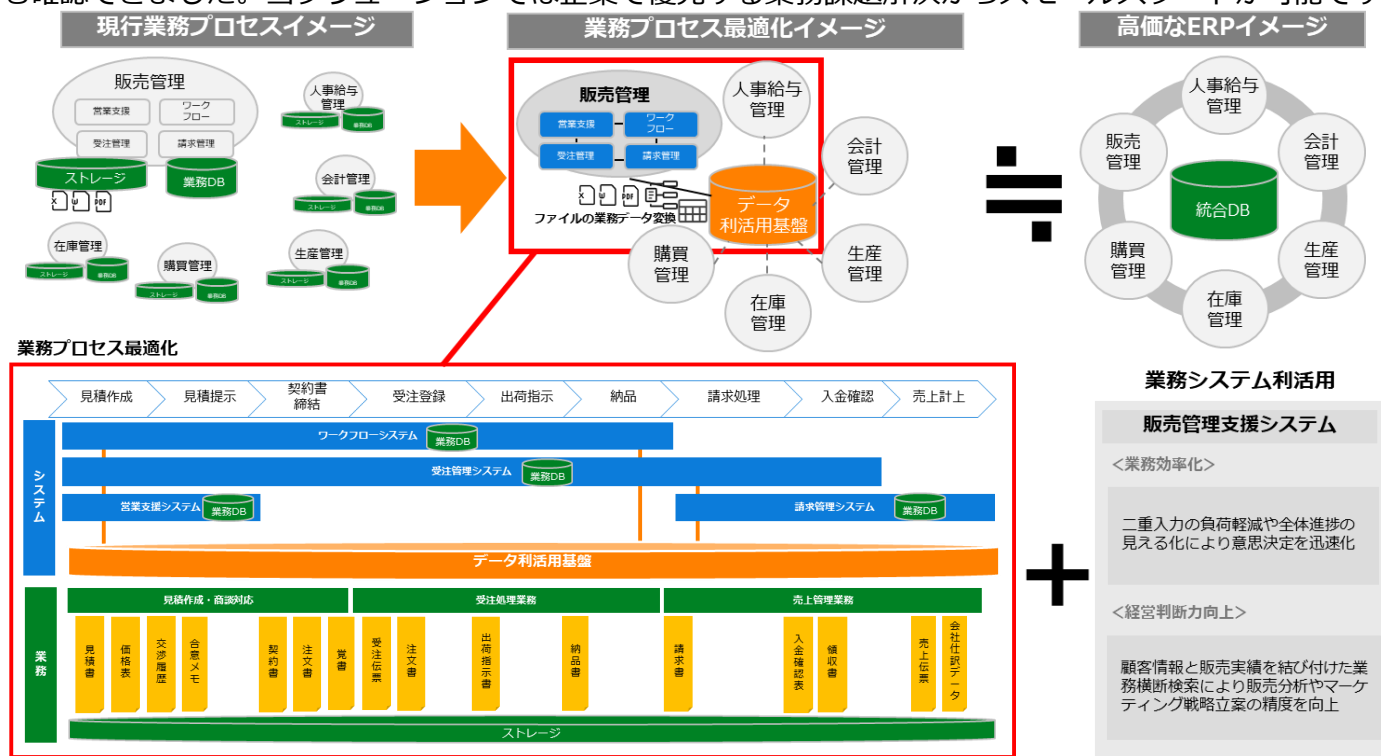


図3：販売管理業務プロセスの最適化と業務システム利活用イメージ

【関連リンク】

データ利活用ソリューション ホームページ（準備中）

【商標について】

Documal/ドキュマルは株式会社富士通四国インフォテックの登録商標です。

【注釈】

（注1） 伴走型支援

企業と共に課題の発見から解決、実行まで同じ目線で寄り添いながら進める支援スタイルです。単なるアドバイスや教育にとどまらず、継続的かつ実践的な関与を通じて、企業の自立と成長を促すことを目的としています。

（注2） GraphQL

APIのためのクエリ言語で、クライアントが必要なデータだけを取得できるように設計されており、REST APIに比べ柔軟で効率的なデータ取得が可能です。

お問い合わせ先

株式会社富士通四国インフォテック

デジタルソリューション事業部 ソーシャルソリューショングループ

E-mail: documal@cs.jp.fujitsu.com